



学校だより



8・9月号

令和6年8月27日

横浜市立善部小学校

校長 朝川 健太郎

「さいからぞうへ」

副校長 高林 悠哉

夏休みが明け、子どもたちの元気な声が戻ってきました。やはり学校の主役は子どもたちだと改めて実感しています。

さて、今年の夏休みにはパリオリンピックが開催され、28日からパラリンピックが開催されます。スポーツが大好きなわたしは、熱い戦いを繰り広げる様子に連日大興奮でした。一生懸命に取り組む選手たちは、みなキラキラと輝いていてとても格好良かったです。改めてスポーツの素晴らしさを感じることができました。ところで、善部小の子どもたちもオリンピック選手に負けないくらいにキラキラと輝く姿が見られます。それは、子どもたちが「さいからぞう」になるからです。

さい

「はやく起きなさい」
「友達と仲良くしなさい」
「宿題をやりなさい」
「お手伝いしなさい」

から



ぞう

「はやく起きるぞう」
「友達と仲良くするぞう」
「宿題をやるぞう」
「お手伝いするぞう」



「〇〇するぞう」と何事にも自分から進んで行動する子どもの姿は、「やるぞうパワー」に満ち溢れキラキラと輝いています。それでは、「やるぞうパワー」を引き出すには、どうすればよいでしょう。わたしが大切にしている考えを2つ紹介します。

失敗したときは「どんまい!」「次、またがんばろう!」

大人から見て当たり前でできることも、子どもにとっては初体験ということもあります。失敗して当たり前なんです。失敗したときには「どんまい!」「大丈夫!」と周囲が失敗を認めることで、子どもも自分自身の失敗を許すことができ安心します。そして「次、またがんばろう」と背中を押すことで、「やるぞうパワー」が引き出され、次への一歩を踏み出すことができます。もちろん、安全や人権に関わることは、毅然とした態度で子どもを指導することが必要な場合もあります。

自分からチャレンジしたことには「いいね!」

「やるぞうパワー」は、その一歩を踏み出す勇気から生まれます。うまくいったとしても失敗したとしても、その勇気を「いいね!」と称えます。チャレンジしたという過程を認めることが大切です。応援してくれている、見守ってくれているという安心感によって子どもの「やるぞうパワー」が引き出され、チャレンジをすることができます。

「やるぞうパワー」を引き出すには、子どもの力を信じて待つことが大切です。これは、大人にとっては忍耐が必要なことでもありますが、学校や家庭で「どんまい!」「いいね!」の言葉を増やしていきませんか。保護者の皆様、地域の皆様、今後も本校の教育活動へのご理解ご協力をよろしく願いいたします。